

施策番号	2005		
施策名	歩行者と共存可能な自転車利用の促進		
概要	駐輪施設の整備や放置自転車の撤去及び放置防止啓発活動を実施することにより、歩行者等の通行を妨げ、まちの景観を損なう放置自転車の減少を目指すとともに、自転車利用ルール・マナーの向上を図り、歩行者と自転車が安心・安全で快適に通行できる環境を実現する。		
担当局・部室	建設局・自転車政策推進室	共管局・部室	
上位政策	20 歩くまち		
施策に関する主な分野別計画等	京都・新自転車計画		

施策の評価

1 客観指標評価

指標名	28年度	29年度	30年度評価						
			前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標のウエイト	
1 鉄道駅周辺における駐輪場の整備状況(箇所)	-	-	214	220	213	103.3%	a	1.00	
2 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
4 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
5 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
6 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
		b	b	客観指標総合評価				a	

2 市民生活実感評価 *この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問	28年度	29年度	30年度回答						
			そう思う	どちらかと言うとそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言うとそう思わない	そう思わない	有効回答者数	評価
1 駐輪場の整備や自転車の利用マナーの向上により、自転車と歩行者が共存できている。	c	c	23 4.8%	115 24.2%	172 36.2%	94 19.8%	71 14.9%	475	c
2 -	-	-							-
3 -	-	-							-
4 -	-	-							-
5 -	-	-							-
		c	c	市民生活実感調査総合評価					c

3 総合評価(客観指標総合評価+市民生活実感調査総合評価)

B	施策の目的がかなり達成されている					29 年度	C
	重み付け	<input type="checkbox"/> 客観指標	a	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の実感	c		
(重み付けの理由) 安全で安心できる歩行空間は、市民に実感されることが重要であるため、市民生活実感評価を重視する。						28 年度	C
(原因分析) 客観指標総合評価 <input checked="" type="checkbox"/> b評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。 <input type="checkbox"/> c評価以下であり、次の原因が考えられる。							
(原因分析) 市民生活実感調査総合評価 <input type="checkbox"/> b評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。 <input checked="" type="checkbox"/> c評価以下であり、次の原因が考えられる。 ・京都・新自転車計画に基づき、駐輪場整備や自転車走行環境の整備、放置自転車の撤去の強化、ルール・マナー向上の取組を推進しており、以前に比べて放置台数や自転車事故の件数は減少している。しかしながら、放置箇所の分散化やルール・マナーを守らない自転車利用者が依然として散見されることが原因として考えられる。							

今後の方向性の検討

＜この施策を構成する事務事業＞

	事業名	事業費の状況(千円)		30年度事務事業 評価結果における 目標達成度評価	担当局
		29年度 決算額	30年度 予算額		
1	自転車駐輪環境の「みえる化」	419,930	382,309	普通	建設局
2	自転車ルール・マナーの「みえる化」	118,645	92,495	良い	建設局
3	市営自転車等駐車場	124,286	104,795	—	建設局
4	京都市山科駅前駐車場(ラクト駐車場)	80,430	81,892	—	建設局
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

＜今後の方向性＞

・市内の鉄道駅周辺において、「民間自転車等駐車場整備助成制度」の活用等により、更なる駐輪施設の整備を目指す。

・放置自転車対策として、24時間365日受付を行う専用電話相談窓口の設置等により、きめ細かい対応を行う。

・都心部地区等における矢羽根型の路面表示の整備や、車道左側走行を促す電柱幕の設置など、自転車走行環境の整備を推進する。

・自転車保険の加入義務化を実施したことに伴い、引き続き加入の促進に努めるとともに、自転車安全教育プログラムを踏まえ、京都サイクルパス制度と連携した自転車安全教室の充実や、自転車ルール等啓発冊子の配布など、地域や関係機関との共汗・融合による更なる自転車ルール・マナーの向上を図る。

・誰もが自転車と触れ合え、安全な乗り方をいつでも楽しく学べるサイクルセンターについて、平成32年度の開設に向けて、大宮交通公園における整備の検討を進める。

施策名	2005	歩行者と共存可能な自転車利用の促進
-----	------	-------------------

指標名	鉄道駅周辺における駐輪場の整備状況（箇所）
-----	-----------------------

担当課	自転車政策推進室	連絡先	2 2 2 - 3 5 6 5
-----	----------	-----	-----------------

1 指標の説明

京都市内の鉄道駅周辺における駐輪場の整備状況

2 指標の意味

歩いて楽しく、環境にやさしく美しい都市空間の確保に向けた共汗の取組による放置自転車対策の進捗状況を示す指標

3 算出方法・出典等

算出方法：京都市における鉄道駅125駅周辺で駐輪場を整備した箇所数

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	28年度	29年度		数値	根拠	達成度
数値	214	220	6箇所増	213	23～25年度実績の平均値（10箇所）を毎年度達成した場合の累計値	103.3%

	全国順位	中長期目標			備考
		数値	目標年次	達成度	
数値		243	32年度	90.5%	近年、子ども乗せ自転車や電動自転車等の多様な自転車の増加を受けて、ラックを撤去して駐車スペースを設けるなど、誰もが利用しやすい駐輪場への転換を進めているが、この取組により整備台数は減少するため、現状に合ったより適切な指標として、箇所数とするもの。

5 評価基準

単年度目標値に対する達成率
a:100%以上
b:95%以上100%未満
c:90%以上95%未満
d:85%以上90%未満
e:未整備～85%未満

6 基準説明

市内の鉄道駅周辺における駐輪場のうち本市関連整備（直営整備，民間自転車等駐車場整備助成金制度を活用した整備，公募等による事業者整備）及び鉄道事業者等による整備箇所数と目標箇所数を比較し，その達成率で評価する。

7 評価結果

28	29	30
-	-	a